

清水小学校3年・社会科授業の出前講座

2月18日(金)5~6校時(13:50~15:30)の社会科授業(3年2組29名・3年2組26名、計55名)に「かかわる道具と暮らし」との主題で出前社会科授業を市史編さん室(田村と吉本)が実施した。この授業は、旧中浜小に所蔵している民具等を活用し、これらの使用法や構造・その時代背景等について知り、現在と昔の生活がどう違うかを児童らに関心を持たせることをそのねらいとした。

小学校に洗濯板・火のし・炭アイロン・羅針盤等々、江戸時代から近現代にかけて使用されてきた昔の道具の本物(実物教材)を持っていき、それに直接に触れさせながらの授業展開であった。なんとといっても道具の歴史が飛躍的に変化したのが、電気が送電されるようになってからである。

日本で初めて電気が使用されて電灯が灯されたのが、今から135年前(明治20年・1887)の東京である。高知市は明治31年(1898)、土佐清水市域は大正7年(1916)、南海水力発電株式会社の益野川水力発電所が設置されて以降である。それ以前は、肥松を炊いて灯として使用していた。金銭的に富裕な家はランプやカンテラが使用していたが、それ以外の多くの家では江戸時代と変わらぬ生活実態であった。



清水小3年社会科授業の様子(授業者田村、吉本)

「①昔の道具にはどんな物があるのだろうか。②昔と今の生活を比べてどこが違うかを考える。」を授業のめあてとし、昔のいろいろな道具について学んだ。この学習を通して、**今と昔の生活の違い**を考え、「**昔の人々と、今の人々ではどちらの人々が幸せだろうか**」ということを話し合った。圧倒的に「今の人々」が幸せという意見が多かったが、「昔の人々」の方が幸せだったという少数意見(3人/55人)もあった。

少数意見側から「インターネットやSNSによる悪口等もあって便利ではあるが幸せとは言えない」という意見があった。この学習をきっかけとし、現在の生活を見つめ直し、そのさまざまな課題を洗い出して、児童たちがより充実した人生を歩むことができると考える。

民具から今の生活道具への変化。

民 具	燃 料	現 在	燃 料
アイロン	炭	アイロン	電 気
あんか		使い捨てカイロ?	鉄の粉
こたつ		電気カーペット	電 気
ランプ	油 アルコール	蛍光灯 懐中電灯	電 気
茶釜	炭、まき (かまど、囲炉 裏などで)	電気ポット 電気ケトル	電 気
飯びつ	なし(保温とし て藁製飯ふご)	電気炊飯器	電 気
洗濯板	人力	洗濯機	電 気

※生涯学習課・吉本工心作成

【編集後記】

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染拡大による「第6波」以降、「患者用病床逼迫」「基礎疾患患者・高齢者の重症化リスク」「社会における経済循環」等々、さまざまな問題が私たちに押し迫ってきました。感染の高止まりとの報道もありますが、県内・郡内でも感染者が増え、毎日のようにその数が報道され、感染やクラスターが身近に発生し、その危険が迫っていることを実感します。予断を許さない状況です。

本年度の「第1回市史編さん・編集委員会」も当初の計画から延期しての開催になりました。また、市史普及啓発活動も市民向けの図書館や中央公民館の主催する歴史講座はオミクロン株の感染拡大により、延期や中止を余儀なくされています。来年度は、終息し、明るい喜びの春が訪れることを祈りたいと思います。疫病退散！

今月24日(木)～27日(日)[9～17時、27日のみ15時迄]の期間、土佐清水市中央公民館3階多目的ホールにて毎年恒例の「**サークル文化展**」が開催されます。このような時期ですが、決して油断することなく、十分に感染に注意しながら、各サークルの企画展示を是非ご覧ください。(田村)